

# 図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立日吉南小学校 伊藤 圭祐

1. 日時・場所 令和元年 8月28日(木) 第3, 4校時 場所 6年2組教室
2. 学年・組 第6学年2組 38名
3. 「学習の方向性」から題材へ

## 「学習の方向性」

感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表すことを楽しむ。

## A表現(2) 絵や立体に表す活動

### 子どもたちの姿

- 工作や絵をかくことが好きな児童が多く、図工の時間を楽しんでいる様子が見られる。
- 苦手としている児童もおり、何を表していいか悩んでしまう児童もいる。
- 「感じたままに花」では、見たもの、想像したものの形や色、印象をもとに、自分なりのかき方で絵に表し、「墨のうた」では、筆のかき心地やぼかし、にじみ、かすれなどを使い、自分らしく表現することを経験している。

### 教師の願い

- 図工の学習は絵をかいたり、木や粘土を使い作品を表現するだけでなく、アニメーションも図工なのだということを知って欲しい。
- 普段からよく見ているアニメーションも、自分で表すことができるということを感じさせたい。
- 表現することが苦手な児童も、簡単な線や形を使って、アニメーションがかけることを味わって欲しい。
- 友だちの発想のよさや構成の面白さなどを感じ取れるようになってほしい。

## 題材名

# 「めくって、変身パラパラアニメ」

～オリジナルのストーリーでパラパラアニメを表現しよう！～

## 題材目標

- パラパラアニメーションの仕組みに関心を持ち、オリジナルのアニメーションを表すことを楽しむ。
- パラパラアニメーションの仕組みを理解し、「喜び」というテーマから表したいストーリーを発想し、効果的に表すようにする。
- 友達の作品などから、発想や構成のよさや表現の意図を感じとるようにする。

## 題材について

本題材は、画用紙を使って複数の画面をかき、それらを連続的に「パラパラ」動かすことで、画面が変化しているように見える方法を使った、基本的なアニメ的表現である。ものの変化や動きから簡単なストーリーを生み出し、パラパラマンガとも呼ばれるものである。自分の表したいように絵を動かしていく学習は、来年度から始まるプログラム学習にもつながると考えられる。

## ○学習の方向性にかかわる育む資質・能力と本題材との関連

- アニメーションは児童の生活に根付いており、生活の中の造形への関心につながる。
- パラパラアニメーションの仕組みを理解し、思いついたことを表したり、形や動きが楽しくなるような効果を考えたりする発想や構想の能力を育てる。
- 見たことがある面白い動きや変化をもとに、アニメーションの表し方を工夫したり、効果的な動きや変化を取り入れたりする活動を行うことで、創造的な技能も養うようにする。

## ○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

### 〔共通事項〕

- ア. 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ. 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

複数枚の画用紙をパラパラと動かしてみることで、形や動きの変化などパラパラマンガの仕組みを理解し、自分の考えたストーリーに合った人やものの動き、変化を考え、イメージをもって表すこと。

## 4. テーマに迫るために

### 部会テーマ

効果的につくることを楽しむ子どもの姿を目指して

### ○出合いの工夫

パラパラマンガの動画サイトや教師の自作の実物を見せ、絵が変わっていく面白さを感じられるようにするとともに、テーマの「喜び」を提示して、自分の表したいストーリーを考えられるようにする。

### ○場の設定の工夫

10枚程度を想定しているが、もっと多くかきたいと思う児童も考えられるので、かき足せるように画用紙を多く用意し、試行錯誤しながら活動できるようにする。

### ○共感的支援の工夫

児童の活動の様子をとらえ、面白さを認めたり、思いを聞き出したりする。なかなか活動が進まない児童には、点や線などの単純な形でも、変化させると面白い動きになることを提案する。活動中は友達の作品を積極的に見合うことで、自身の発想に生かし、楽しんで活動できるようにする。

### ○小中一貫の視点

映像メディアの活用につながる題材である。アニメーションの原理について理解し、実際に表現することで、美術科での表現活動の際、発想や構想を広げることにつながる。

## 5. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	○パラパラアニメーションの仕組みに関心を持ち、動きが連続して見える楽しさを味わおうとしている。
発想や構想の能力	○パラパラアニメーションの仕組みやテーマの「喜び」から表したいことを思いついたり、ストーリーなどを考えたりしている。
創造的な技能	○パラパラアニメーションの仕組みを使い、表したいことを効果的に表している。
鑑賞の能力	○友達と作品を見合い、表現した思いや意図、表し方の特徴について話し合い、そのよさを感じ取っている。

## 6. 指導と評価の計画（2時間）

- ア. 簡単なストーリーを考える。（15分）
- イ. 少しずつ変化させたものを何枚もかく。（50分）
- ウ. かいた絵を順番につなげてパラパラアニメーションを楽しむ。（10分）
- エ. 友達の作品もパラパラ動かして、作品のよさや表現の意図を見つめ合う。（15分）

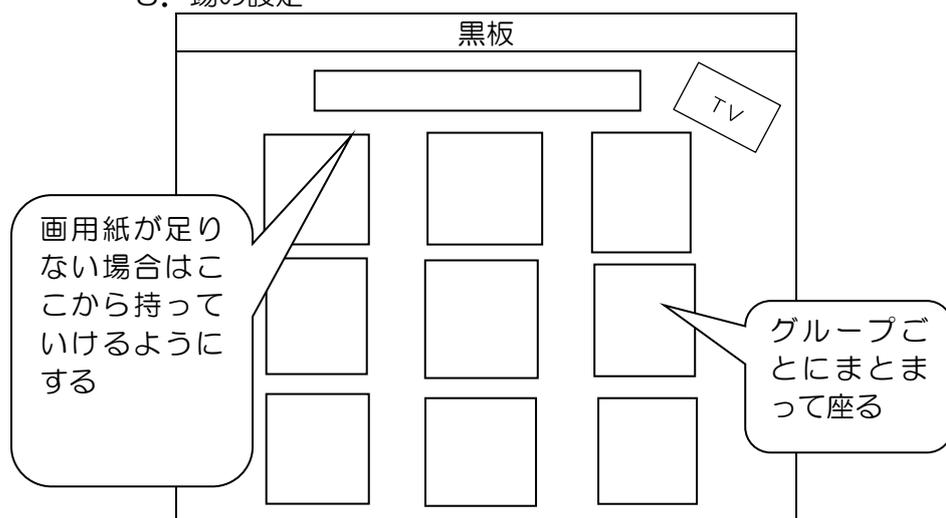
	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1	<p style="text-align: center;">ア 簡単なストーリーを考える</p> <p>○パラパラアニメーションの仕組みを知る。</p> <p>○ストーリーを考えながら、アニメーションをつくる。</p>	関	<p>○参考作品としてDVDとパラパラマンガの実物を見せ、イメージをもつことができるようにする。</p> <p>○アイディアスケッチを行い、簡単なストーリーを考えられるようにする。</p>
2	<p style="text-align: center;">イ 少しずつ変化させたものを何枚もかく。</p> <p>○少しずつ変化させたものを何枚もかく。</p>	創	<p>○画用紙をたくさん用意しておき、失敗してもすぐにかき直せるようにしておく。</p> <p>○動きを生み出すには、少しずつ動いているように何枚もかくようにするとよいことを伝える。</p> <p>○かく枚数が多いので、細部を省略した単純な線でかくようにする。</p> <p>○紙の端半分に描くようにさせ、クリップで仮止めしながら、パラパラ試しながら製作する。</p>
3	<p style="text-align: center;">ウ かいた絵を順番につなげてパラパラアニメーションを楽しむ。</p> <p>○描いた絵を順番につなげてパラパラアニメーションを楽しむ</p>	関	<p>○紙を素早く動かすと良いことを伝える。</p>
4	<p style="text-align: center;">エ 友達の作品もパラパラ動かして、作品のよさや表現の意図を見つけ合う。</p> <p>○友達の作品を楽しみ、作品のよさや表現の意図を見つけ合う。</p>	鑑	<p>○鑑賞カードに友達の作品のよさや表現の意図を考えることで、自分の見方や感じ方を深められるようにする。</p>

## 7. 準備

児 童：鉛筆、ペン

教 師：画用紙（3cm×12cm）、付箋紙、クリップ

## 8. 場の設定



## 9. 研究内容についてのふりかえり

### 1. 「学習の方向性」と「共通事項」を基にしたカリキュラムマネジメント

自分なりの思いを、動きを使って表すことのできるパラパラアニメーションを題材に設定した。普段から子ども達はアニメーションに接する機会が多くあり、興味を持って活動することができた。パラパラアニメーションの仕組みを理解することで、形や動きの効果を考えたりする発想や構想の能力を育てたい。

#### ・材について

アニメーションは普段から接することが多く、その簡単な仕組みを使ってできるパラパラアニメーションは、興味を持って活動することができた。

#### ・場の設定

アドバイスがしやすいようにグループの隊形にして行っただが、作ることに没頭する児童が多く、お互いに見合いながら取り組む姿があまり見られなかった。

#### ・活動の様子

テーマの「喜び」をパラパラアニメで表現することが難しく、考え込んでしまう様子が見られた。作品を作り始めると黙々と作る児童が多く見られ、2時間では制作時間が短いと感じた。何をかいていいのかわかっている児童には、抽象的な形を使ってかいてもよいことを伝えたが、それだと自分の思いを上手く表現できないようで、抽象的な形を使ってかく児童はほとんどいなかった。

考え込んでしまう児童も見られたが、アイディアスケッチをするうちに、徐々に自分のイメージするものが見えてくる様子が見られた。アイディアスケッチでコマをかくと、動きをイメージしやすくなるようだった。パラパラとめくりながら動きを確認して、作品を作っていた。ものや人が動いているように見えるには、紙の硬さと枚数が重要なことがわかった。今回は画用紙を使って行っただが、少しめくりづらそうだったので、付箋紙を使って再度試してみた。画用紙も付箋紙もそれぞれ良さがあり、どちらの方がよいとは言えないと感じた。

鑑賞では、全員で見ることができるよう、それぞれの作品をiPadでテレビに映し出した。発表することを恥ずかしがっている子もいたが、友達から自分の作品を紹介されると自分の言葉で作品を紹介する姿が見られた。

## 2. 子どもが主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

活動の始めにテーマを意識して作品を作るように言ったので、よく考えてつくることに集中している子ども達がいた。「どのようなストーリーにしたら、テーマをパラパラアニメで表現することができるのか」を一生懸命に考えて、試行錯誤しながら作品と向き合っていた。一回目は黙々とかいている様子だったが、二回目は友達と話をしながら、かいている姿がみられ、子どもたちなりに考えて友達同士かかわっていたのではないかと感じた。

今回は、友達と作品を見合いながら、作っていくことが少なく対話的な部分がやや不足していたが、自分のイメージを作り出す面白さは達成できていたように思う。パラパラアニメをかいたことない児童が意外と多く、遊びの中での造形的な活動の必要性を感じた。今後は授業の時だけではなく、日常から造形的な活動を取り入れていきたいと思う。